

勉強になった2つのボランティア活動

国際学部1年

清本 まゆみ

私にとっての2021年度は多くの出会いと成長の一年になりました。

私は昨年の4月に宇都宮大学に入学し、希望と期待で胸がいっぱいでした。しかし、高校とは全く異なる環境や人間関係の新しい生活に慣れるのが大変で、時には進学した事が間違いだったのではないかとも思いました。そんな時、宇都宮大学国際学部附属多文化公共センターが行っている学生ボランティア活動や田巻松雄先生が自ら立ち上げた「とちぎ自主夜間中学」に出会いました。最初は、仕事や業務を淡々とこなす上級生を前に自分が役立てる事は無いのではないかと思いましたが、先輩方と先生方は私を優しく指導してくれました。そして、活動をしていく中で自分も人の役に立てる事に気付きました。

この一年で行ったボランティア活動の中でも、印象に残りとても勉強になったボランティア活動が二つありました。

一つ目は、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターが行っている学生ボランティア活動です。学生ボランティア活動では、県内の小学校に通っている外国人児童生徒を週に一時間だけサポートしました。私はこの活動を通して、論理と実践の違いを学びました。大学の講義や本などを通してボランティア活動や多文化共生の課題について学んだと思っていましたが、小学校でのボランティア活動を通して自分の知識

不足を感じました。実際の現場で活動する事で自身の問題点や偏見に気付く事と共にどのようにその欠点を改善できるかについても考えるようになりました。

二つ目は、田巻先生が行っている「とちぎ自主夜間中学」のボランティア活動です。とちぎ自主夜間中学の活動を通して、中学校入学を拒否された外国人児童生徒の中学校入学を認めてもらえるように努めた田巻先生の通訳としてサポートしました。私はこの活動で、通訳の難しさを実感しました。私は母語と同じくらいに日本語を流暢に話せるので、いつも日本語が話せない家族や親戚の方に簡単な通訳をしています。しかし、今回私が通訳をさせて頂いた外国人児童生徒は来日して間もない為、日本の知識があまり無く母語で伝えても理解してもらえない事がありました。また、日本でしか存在しない言葉を通訳するのが大変でした。この活動を通して、通訳をする時は当たり前を当たり前だとは思わず、相手が理解できる言葉に変えて伝える事が大切という事を学ぶことが出来ました。

2021年度はこれらの活動を通して、大学の講義だけでは学べない事を多く学び、多くの人に出会う事が出来た一年となりました。これらの経験から学んだ事を忘れずに2022年も様々な活動に参加し、より多くの知識と経験を得たいです。